

日本コウノリの会設立趣意書

かつては日本各地で暮らしていたコウノリが、明治以降の近代化(経済・効率至上主義)によって激減し、ついに日本の空から姿を消したのは1971年のことでした。あれから半世紀近くが経過した今、コウノリは人々の熱意と努力によって見事によみがえりつつあります。

人工飼育での保護増殖事業で個体数を増やしたコウノリは、2005年から兵庫県豊岡市で始まった放鳥と野外繁殖により着実に仲間を増やし続けています。昨年からは千葉県野田市、福井県越前市、韓国イエサン郡で放鳥された個体がそれに加わって、今や100羽を超えるコウノリたちが北海道から沖縄、千葉から朝鮮半島と東西南北を幅広く飛び廻っています。

彼らが各地をダイナミックに飛ぶのは、一気に200km以上を飛ぶ飛翔力の強さを示すものであると同時に、現在の日本にはまだコウノリが生息でき得る良好な環境がほとんどないために、転々と探し求めていることを表しています。早急に、コウノリが各地で定住できるよう、水辺環境の再生が求められます。

一方、突然にコウノリが舞い降りてきた各地では、一様に暖かく迎えられているだけでなく、生態観察、自然環境の再生、環境創造型農業への転換などに進んでいるところもあります。たった1羽が舞い降りることで、その姿に魅せられた人たちによる小さな動きが始まり、周囲を巻き込み、やがて地域・農業をも変えようかというコウノリ。まさにコウノリは地域に希望と勇気を運んでくる鳥であり、困難な日本の環境再生に向けて無限の可能性を示してくれる鳥と言えます。

コウノリを積極的に迎えようとされている地を始め、各地で一定のムーブメントが起こりつつあることを受け、本年6月、私たちコウノリを愛する市民が豊岡に集い、日本・韓国におけるコウノリ飛来状況や市民活動の状況を報告し、語り合いました。

「里の鳥」であるコウノリが持続して暮らしていくには、その里に暮らす住民のふるさとへの熱い思いを基盤とした主体的な活動如何にかかっています。これまで、コウノリ保護・野生復帰事業は行政・研究者に任せっぱなしだったことを反省し、行政—研究者—市民の三者が真に協働していこう、そのために私たち市民の力量を、全国ネットワークを構築して高めていこうと決意しました。そして、野生復帰途上のコウノリを市民の立場で支えていくため、それぞれの地でコウノリが生息できる環境づくりに取り組んでいくことを確認しました。

こうして、本年8月30日、私たちは市民組織「日本コウノリの会」を結成しました。

飛翔力が強く、東アジアを自由に行き来する渡り鳥・コウノリ。野生復帰途上にある個体たちも、徐々にそのおおらかな本領を発揮しつつあります。彼らに寄り添い、支えていくには、私たちも閉塞的であってはなりません。様々な人々、機関、団体、企業と広く連携し、可能な限りコウノリが生息できる環境を多様に創っていきたいと考えています。

小規模でも、生態系の頂点に立つ肉食鳥・コウノリが採食できる環境ができれば、そこには必然的に多様な生物が住める空間となるでしょう。その空間が増え、いくつかがつながれば、少しずつ少しずつ、人もコウノリも共に生きていける社会に近づけると思っています。

困難な道ですが、「次代に生きる子どもや孫のために創っておく」と思うことで、壁は突破できると信じています。

私たちは、例えば、次のことに取り組んでまいります。

◎コウノリの生態をより深く理解するために

- ・まず、会員がコウノリを正しく理解するために、学習活動を進めるとともに、コウノリが飛来したら個体の動向を観察します。
- ・観察状況は、当該自治体やコウノリの郷公園に報告し、かつ会員に発信して情報の共有化を図ります。

◎コウノリのことを広く知ってもらうために

- ・コウノリのこと、野生復帰の取り組みのことなどを広く知ってもらうよう、いろいろな方法で活動します。
- ・各地にコウノリが飛来してきたら、できる範囲で観察され、当会(コウノリの郷公園、当該自治体)に情報提供していただくよう、広く呼びかけます
- ・飛来情報は、当会で整理してHPで公表します。

◎全国各地で、コウノリの生息環境づくりを進めます。

- ・コウノリの餌場になるよう、とくに休耕田や放棄田を活用して湿地にしていく活動を進めます。

2016年8月30日

日本コウノリの会発起人一同